

■ 資料 ■

創造都市研究科紀要

『創造都市研究 (RJCC : Research Journal for Creative Cities)』

投稿規定

2005年11月決定

2007年5月改訂

2018年12月改訂

1. 投稿上の制限

- (1) 他誌、単行本等に掲載されていない未発表のものに限る。
- (2) 本誌に掲載された論文等の著作権は、著作者に帰属する。著作者は、当該論文等をクリエイティブ・コモンズ表示-非営利4.0国際ライセンスの下に提供するものとする。
- (3) 本誌に掲載された論文等は、大阪市立大学学術機関リポジトリを通じてインターネット上で公開する。

2. 投稿資格

依頼論文を除き、大阪市立大学創造都市研究会会員とする。

3. 投稿の締め切り

投稿論文は随時受け付ける。

4. 原稿執筆と投稿

- (1) 執筆者は、創造都市研究科HPに掲載の「『創造都市研究』執筆要項」(下記)に基づいて執筆すること。
- (2) 論文の出力形式
 - 1) 原則として、ワードプロセッサでA4版用紙に40字×40行設定で印字したもの。
 - 2) 上記とは別に、論文代表者の連絡先の住所、氏名、電話、FAX、e-mailアドレス(所有者)を書いた別紙を必ず添付する。
- (3) ワード、pdfファイルを編集委員会宛に送付すること。

5. 投稿論文の掲載決定

- (1) 投稿論文は、審査委員(レフェリー)による審査を受け、編集委員会が掲載の可否を決定する。
- (2) 査読判定の区分
 - A: 投稿論文のまま掲載可。
 - B: 若干の修正のうえ再査読は不要で掲載可。
 - C: 修正のうえ再査読を条件として掲載可。また、再査読の結果、掲載不可もありうる。
 - D: 掲載の水準に達せず、掲載不可。

【『創造都市研究』原稿送付先】

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院創造都市研究科内

大阪市立大学創造都市研究会『創造都市研究』編集委員会

電話: 06-6605-3507 FAX: 06-6605-3488

メールアドレス: rjcc2006@gscc.osaka-cu.ac.jp

創造都市研究科紀要

『創造都市研究 (RJCC : Research Journal for Creative Cities)』

執筆要項

2005年11月決定

【目次】

- I. 原稿の作成
- II. 文章表記
- III. 項目の区分と表記
- IV. 図表の表記
- V. 注の表記と位置
- VI. 引用の表記
- VII. 参考文献の表記

I. 原稿の作成

1. 原稿枚数

- (1) 論文 (24,000字以内)
- (2) 研究ノート (24,000字以内)
- (3) 特別論文 (16,000字以内)
- (4) 研究資料 (24,000字以内)
- (5) 書評 (4,000字以内)

2. 論文の構成

論文題目、著者名、著者所属、和文要約(800字以内)、和文キーワード(5文字以内)、英文題目、英文著者名、英文著者所属、英文アブストラクト(250ワード以内)、英文キーワード(和文キーワードに対応)、本文、文末注、文末参考文献リスト。

3. 論文の出力形式

- (1) 原則として、ワードプロセッサでA4版用紙に40字×40行設定で印字したもの。
- (2) 上記とは別に、論文代表者の連絡先の住所、氏名、電話、FAX、e-mailアドレス(所有者)を書いた別紙を必ず添付する。

(※注意) 原稿においては、ワードプロセッサの注(脚注)機能やコメント機能はすべて使わず、テキストで地に書いてください。注・参考文献は、以下のように本文末に一括してつける。

4. 図表の枚数換算

1 / 3頁の大きさの図や表は、350字分、1 / 2頁の大きさの図や表は、500字分、1頁大の大きさの図や表は、1000字分、とみなす。

II. 文章表記

文章は原則として、当用漢字、現代かなづかいを使用し、横書きとする。句読点は、「、。」を使用する(「…」は使用しない)。

現地の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。なお、一般化していない固有の名称(地名、人名、機関名、会社名など)は、最初に限りその原

語（ただし、現地語の場合は、そのローマ字化したもの）をカッコ内に付記する。

外来語、現地の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書き（全角）とする（中国を除く）。ただし、パーセントは記号（%）を使用し、図表では一般的な単位は記号（m、g、t、㎡、haなど）を使用する。

数字は、原則として算用数字を使用する。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆を用いる。

（例）23億500万円、1万2000人

継続を示す場合は ～ を使用する。

（例）1970～74年、30～40%、0～5歳

Ⅲ. 項目の区分と表記

大項目：Ⅰ、Ⅱ、……（節に相当）

中項目：1、2、……（項に相当）

小項目：(1)、(2)、……

列挙項目：1)、2)、……

Ⅳ. 図表の表記

1. 各々、通し番号を付し表題をつける。必ず単位、出所を明記する。
2. 表について注記が必要な場合には、出所を示したあとにつづける。

（例）表1 貨物輸送の機関別シェア

	J R	民鉄	トラック	内航海運
41	26.3	0.4	31.4	42.3
42	23.4	0.4	33.3	42.6
43	28.4	0.4	34.5	40.5

（出所）日本鉄道監査委員会 [1970、117ページ]

（注）民鉄とは…

Ⅴ. 注の表記と位置

1. 注記は通し番号 1) 2) ……を付し、文末注にする。
2. 参照文献注は本文中に入れること。

Ⅵ. 引用の表記

本文中または注において引用箇所を表記する場合、章末に参考文献を一括配列（邦文文献は五十音順、外国語文献ではアルファベット順）にしたものに基づき、次のようにする。

1. 【邦文文献】の場合

(1) 参照を示す場合：

（例）安井 [1971] によれば、近代経済学の学問的性格は「論理実証主義」といわれる。……

(2) 引用頁を示す場合：（単頁の場合「p.」、複数頁の場合「pp.」を使う）

（例）……「仮説と事実との間にフィードバックが行われる」（安井・碧海 [1971] p. 55）。

2. 【外国文献】の場合も、上記と同様にする。

（例）Samuelson [1968] によれば……、

3. 表図や写真の出所の明示も、参考文献でリストに載っているものは同様の方法による。

Ⅶ. 参考文献の表記

1. 参考文献は章末に一括して掲示し、その配列は次のようにする。邦文文献の場合は五十音順、外国文献

の場合はアルファベット順とする。同一筆者で、発表年次が同年の場合は、著者名 [1996a]、著者名 [1996b] のように区別する。

2. 参考文献の表記については、下記的方式を用いる。

【A. 邦文文献】

原則として、論文名は一重括弧「」、**単行本名・雑誌名・新聞名等は二重括弧『』**とする。

(1) 単行書

著者名 [西暦]『書名』(シリーズ名)、出版社。

(例) 竹内昭夫ほか編著 [1975]『現代の経済構造と法』(現代法学全集第52巻、現代法の諸問題Ⅱ)、増補版、筑摩書房

(2) 共著・分担執筆論文

執筆者名 [西暦]「論文名」(編者『書名』、出版社)。

(例) 内田義彦 [1966]「日本思想史におけるウェーバーの問題」(大塚久雄編『マックス・ウェーバー研究』、東京大学出版会)

(3) 雑誌論文

執筆者名 [西暦]「論文名」『雑誌名』巻号。

(例) 吉村勳 [1975]「国民教育権と大学の自治」『経済学雑誌』第67巻第4号

(4) 新聞

『新聞名』発行年月日。

(5) 未刊行物・内部資料

著者名 [未刊]『書名』(または執筆者「論文名」、出所)。

【B. 外国文献】

著者名は原則として姓名を倒置し、共著の場合2人目からは倒置しない。また、姓名を省略する場合は、名を省略し、頭文字のみを残す。

原則として、論文名は一重引用符「'」、**単行本名・雑誌名・新聞名等は二重引用符“ ”**のイタリックとするので、その旨をご指示下さい。ただし、ファイル上でイタリックにする必要はありません。

(1) 単行本

著者名 [西暦], 書名 (イタリック) (邦訳), 版次, 出版地, 出版社。

(例) Lalitphan Phiriyaphan [1993], “*Khaphrimiyam nai Kansukhai Ngantra-tangprathert-luangna nai Prather Thai*” (『タイの先物為替売買における先物プレミアム』), Bangkok, Master of Economics, Thammasart University.

(2) 共著・分担執筆論文

執筆者名 [西暦], ‘論文名’ in 書名 (イタリック), ed. by 編者名, 出版地, 出版社。

(例) Chakravarty, S. [1964], ‘Choice Elements in international planning’ in “*Capital Formation and Economic Development*”, ed. by P. N. Roseintein Rodan, London, Allen & Unwin.

(3) 雑誌論文

執筆者名 [西暦], ‘論文名 (邦訳)’, 雑誌名 (イタリック), 巻, 号。

(例) Sophon Phonchokhchai [1990], ‘Sathanakan Kanplienplaeng Rakha thidin lae Naewnom Kanphatthana Asangharimsap (地価動向と不動産開発の傾向)’, “*Sangkhom Phatthana*”, Vol. 1, No. 3.

(4) 新聞

新聞名, 日, 月, 年。

(例) “*Jerusalem Post*”, 12 April, 1971.

(5) 未刊行物・内部資料

著者名 [forthcoming], 書名 (または執筆者, 論文名), 出所 (以上)